

3. パネル（平成30年北海道胆振東部地震に係る復旧・復興等の状況）



平成30年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」は、北海道がかつて経験したことがない「震度7」を観測し、各地に甚大な被害をもたらしました。

これは、北海道胆振東部地震からの一日も早い復旧・復興に向けた北海道開発局における活動記録です。



国土交通省 北海道開発局
「北海道開発局 復興・強靭化推進本部」

目次

地震発生

◆ 北海道内で史上初の観測 震度7	1
◆ 大規模崩落 明治以降最大	2
◆ 激震の痕跡	3
◆ 生産空間への被害	4
◆ 道路に段差	5
◆ 堤防に亀裂	6

緊急対応

◆ 防災ヘリから被災調査	7
◆ 早急に救援ルートを確保 道路啓開	8
◆ 迅速な緊急復旧により3日後に通行止め解除	9
◆ 地域の建設業者が昼夜を問わず緊急復旧に取り組む	10
◆ 安全を確保し最大限の緊急復旧を実施	11
◆ 24時間体制で緊急復旧、節電の取組	12
◆ 斜面崩壊で発生した大規模な河道閉塞	13

被災地支援

◆ 被災地に寄り添う支援	14
◆ 開発局職員が地元に密着したサポートを展開	15
◆ TEC-FORCEが全国から被災地に集結	16
◆ 道外からも緊急救援	17
◆ 被災地を支援する「道の駅」「給水活動」の取組	18
◆ 緊急対応「タイムラインの取組」「橋梁の緊急点検支援」	19
◆ 専門家による高度な技術支援	20

復旧・復興に向けて

◆ 復旧・復興・強靭化に向けて	21
◆ 強靭化推進 災害査定、直轄河川の復旧	22
◆ 強靭化推進 直轄事業による復旧支援	23
◆ 産業支援 地域農業の持続・復興に向けた取組など	25
◆ 産業支援 苦小牧港直轄災害復旧状況	27
◆ 産業支援 海外輸出を通じた復興支援、パネル展開催	28
◆ 観光支援 北海道観光の復興に向けて	29

復興応援

◆ 被災地を復興応援	30
◆ 厚真町	31
◆ 安平町	32
◆ むかわ町	33

9月6日(木)03時07分

地震発生

北海道内で史上初の観測

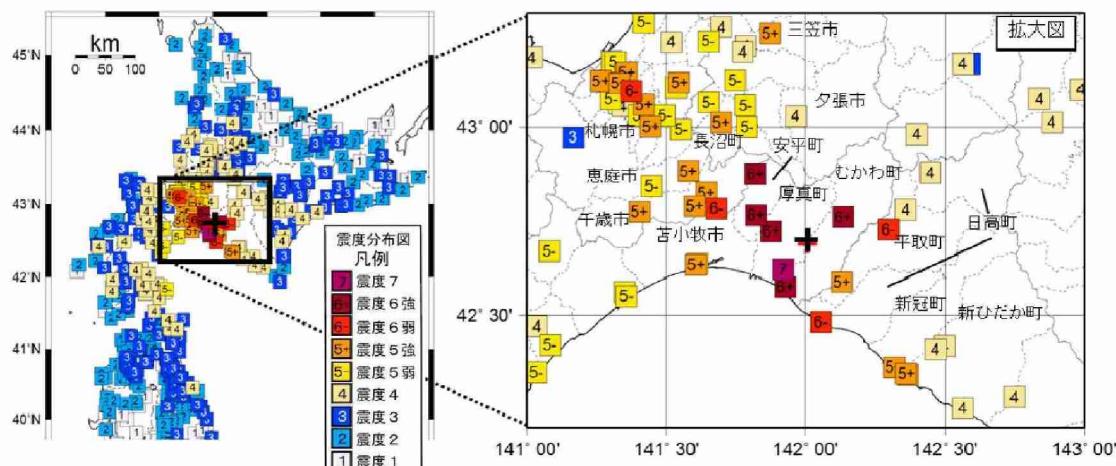
震度7を観測

広範囲にわたり激しい揺れが発生

9月6日の地震(M6.7)の発生以降、11月30日24時現在の地震の回数は、最大震度7が1回、最大震度5弱が2回、最大震度4が21回、最大震度3が35回、最大震度2が85回、最大震度1が181回、計325回になっています。

この一連の地震活動により、胆振東部地方を中心に各地で甚大な被害が発生しました。

震度分布図



地震概要

発生日時 平成30年09月06日(木)03時07分
震 源 胆振地方中東部、深さ37km（暫定値）

規 模 マグニチュード 6.7（暫定値）

地震名称 平成30年北海道胆振東部地震

主な震度 震度7 北海道厚真町

震度6強 北海道安平町、北海道むかわ町

震度6弱 北海道千歳市、北海道日高町、北海道平取町、
北海道札幌市東区

その他、北海道から中部地方の一部にかけて震度5強～1を観測。

地震発生

大規模崩落

3,000万m³の土砂が一気に崩落

※速報値

崩壊面積13.4km²(札幌ドーム約44個)

平成16年新潟県中越地震(既往2位)の約1.2倍

明治以降
最大

厚真町高丘地区

厚真町富里地区

2



地震発生

震源地に近い勇払東部地区(厚真町、むかわ町)では、
厚真ダムを含め地区全体にわたり農業水利施設等に甚
大な被害が生じました。

生産空間への被害

日本の食料供給基地 農林関係の被害状況

◆被害額は1,140億円

※ 農林水産省 (1/28時点)

- ①農地・農業用施設への土砂堆積や損傷(580億円)
- ②林地の大規模崩壊や林道の損傷(475億円)
- ③農作物等の被害(85億円)

苫小牧港 液状化

沈下

緊急点検の結果、苫小牧港各所で液状化やそれに
による沈下の発生を確認。
物流や支援活動への影響を最小限にとどめるため、
国際コンテナーミナルなどの応急復旧や、支援船の
入港岸壁の調整など早期の対応が求められました。

4



地震発生直後から、国が管理する日高自動車道(沼ノ端西IC～日高厚賀IC)を全面通行止めとし、地震時点検を実施。その点検結果により路面変状による段差等が確認されました。





堤防に亀裂

国が管理する鶴川水系鶴川においても、河川堤防の縦・横断亀裂など24か所で被災が確認され、次の出水に備え、一刻も早い緊急復旧工事が求められました。
(その後、10月5日の余震で1箇所の被災が新たに確認されています。)



防災ヘリから 被災調査

緊急対応



防災ヘリで被災状況を調査し、リアルタイムで情報を提供

被災状況の全容を把握し早期復旧の参考にするため、北海道開発局保有の「ほっかい号」により、立入困難な大規模土砂崩落の被災現場等を上空から調査。また、可搬型の衛星設備(ku-sat)を設置し、被災した自治体へリアルタイムでの被災状況映像を提供するなど迅速な対応に役立てました。



7

緊急対応

緊急復旧を実施するため 早急に救援ルートを確保



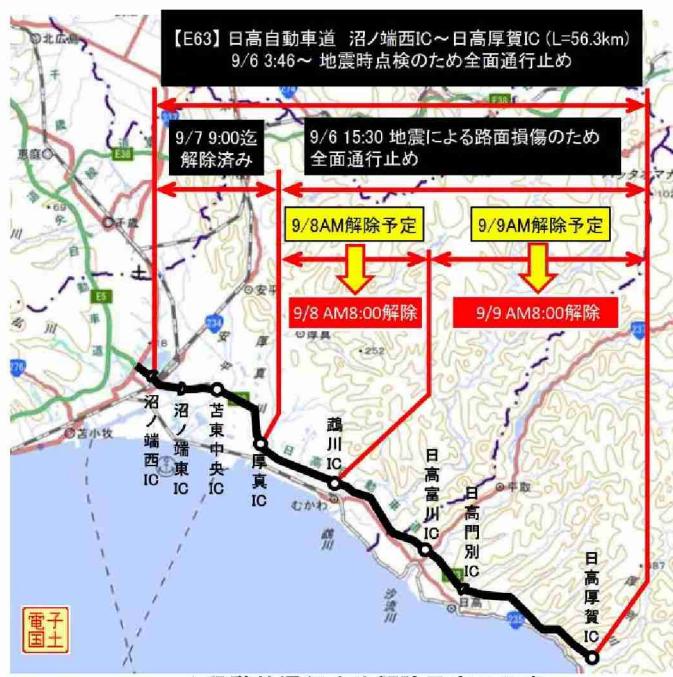
被災からおおむね5日以内に、地域の最低限のアクセスを確保

地震発生後、被災自治体と北海道開発局が調整し、緊急車両を通行可能とするために必要最低限の倒木処理や路面段差の解消などを早急に行う「道路啓開」を建設業者の協力を得て実行。救急車や警察、自衛隊などの緊急車両が通行可能になりました。

道路啓開



8



▲緊急車両の通行状況

早急な点検を行い9月6日夜には緊急車両の通行が可能と判断。被災地の復旧支援に貢献。

また、被災直後から、路面変状の緊急復旧計画を迅速に立案し、9月7日の16時30分には、段階的な通行止め解除予定について報道発表し、昼夜にわたり緊急復旧工事を実施し、計画どおりに通行止めを解除しました。

9



河道閉塞した厚真川の緊急復旧作業

災害発生直後から被害の拡大を防ぐため、重機による流木や土砂の撤去など、過酷な災害現場の中で昼夜を問わず緊急復旧に取り組みました。建設業者は、地域の守り手としての重要な役割を担っています。



安全を確保し 最大限の

緊急対応

緊急復旧を実施

関係機関との連携により迅速な復旧作業に取り組む

厚真ダムに隣接する山腹が崩壊し、余水吐（大雨時に洪水を流す水路）に倒木や土砂が流入（最大で水路断面の半分程度）。

自衛隊の協力も得て、余震に気を付けながら、水位計設置、倒木・土砂除去を実施しました。

余水吐への流入土砂撤去状況



被災直後の余水吐



11



次の台風を前に、河川堤防の緊急復旧を完了

地震による河川堤防の変状が確認された鶴川水系鶴川では変状が大きい4か所において、一刻も早い応急対策の完了を目指して、建設業者の協力を得ながら24時間体制で緊急的な復旧工事が進められ、おおよそ6日間で全ての工事を完了させました。

北海道開発局は、組織を挙げて節電に取り組みました

節電の取組



北海道胆振東部地震による発電施設の損傷を原因とする電力供給能力の低下を受け、北海道開発局は、管理する道路やトンネルの照明減灯の工夫、全道に立地する庁舎の節電の徹底等、組織を挙げて節電に取り組みました。

**斜面崩壊で
発生した大規模な
河道閉塞**

緊急対応

北海道勇払郡厚真町日高幌内川
(H30.9.26)

斜面崩壊部

閉塞部
約1,100m

湛水

日高幌内川

水位計、カメラを設置し監視・観測体制を構築

日高幌内川では、右岸側の尾根部(幅約400m)が地震により滑動し、約1,100mに渡って河川を閉塞させる大規模な河道閉塞が発生したため、緊急的に監視・観測体制を構築しました。

水位観測ブイの設置

監視カメラの設置

水位観測ブイをヘリで運搬

13



幹部職員の派遣で被災自治体の技術支援を強化

被災自治体では、多岐に渡る災害対応が求められる一方で、技術職員の人数が限られています。国土交通省では応急対策や復旧に向けた助言を行い、現地で活動するTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)を統括するため、本省及び開発局の幹部職員を直ちに被災自治体に派遣し、首長等へ被災状況の報告や応急復旧に向けた技術支援を行いました。





災害発生直後からリエゾン(現地情報連絡員)を被災した自治体の災害対策本部に派遣。被災状況や必要な支援内容等の情報把握、北海道開発局との連絡・調整を行いました。

災害発生後、40日間で延べ812人を派遣しました。



北海道開発局農業部門では、職員により構成される水土里(みどり)災害派遣隊を被災地に派遣。自治体に代わり、農地・農業水利施設の被害状況調査及び災害復旧事業の技術的指導の支援を実施しました。

9月6日活動開始 延べ人数 2,722人 (H31. 3末まで)

15

被災地支援 TEC-FORCEが

全国から被災地に 集結 延べ3,064名

災害対応のスペシャリストが全力で被災地を支援に

被災状況の全容把握や被災地の早期復旧に向けた技術的支援を行うため、全国からTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)が被災地に集結。

災害発生直後から東北・関東・北陸・中部・中国・四国・九州地方整備局等の職員延べ3,064人が派遣され、被災地の早期復旧に取り組みました。



全国から集結したTEC-FORCE

厚真町町道被災箇所点検（関東地方整備局）

調査結果取りまとめ（東北地方整備局）

土砂災害危険箇所点検（北陸地方整備局）

調査結果報告書手交式（厚真町）
-北海道開発局、東北・関東・北陸・中部地方整備局

16

道外からも

被災地
支 援

緊急救援

苫小牧港 支援物資の荷下ろし

北陸地方整備局の船「白山」^{はくさん}が救援物資の運搬や入浴支援を実施

被災地支援のため北陸地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「白山」が9月8日に苫小牧港に支援物資を運搬するとともに、同港において入浴・洗濯・給水支援等を9月16日までの9日間にわたり実施しました。



関東地方整備局の備蓄物資を民間船舶「はくおう」により輸送

関東地方整備局により川崎港東扇島地区基幹的広域防災拠点等に備蓄されていた支援物資が防衛省が契約している民間船舶「はくおう」により輸送され、被災地に提供されました。



避難者を受け入れ、防災拠点として被災地を支援

道の駅「むかわ四季の館」は、地域防災計画における避難所として位置づけられています。北海道胆振東部地震では道内全域が停電しましたが、非常用発電機によりトイレ、研修室、携帯電話充電サービス等が利用可能であったため、避難所として開放し、被災地域の住民(最大時270人)が利用しました。※9/6~11/11まで 延べ 5,431人が避難所として活用





地震発生直後、厚真町において、関係機関と連携し、「台風・前線性の降雨等に伴う洪水・土砂災害等」を対象としたタイムラインの検討に着手。北上する台風第24号に対し、9月28日より緊急的にタイムラインを立ち上げました。



地震発生直後から、橋梁点検車により被災自治体(安平町、むかわ町、厚真町)の橋梁について緊急的に24箇所の点検を実施し支援。

被災地
支 援

「提供(国研)土木研究所寒地土木研究所」
**LERT
COLD REGION**

液状化被害に関する
専門家チームの派遣
(札幌市清田区里塚)



**専門家による
高度な技術支援**

港湾災害専門家による苫小牧港被災施設の現地調査実施
(苫小牧港国際コンテナターミナル等被災施設)



20



「北海道開発局復興・強靭化推進本部」の設置

～ 着実な復旧・復興対策の推進に向けて～

北海道開発局では、平成30年北海道胆振東部地震の発生(9月6日)から1か月が経過した10月5日付で、第8期北海道総合開発計画の着実な推進及び復旧・復興並びに国土強靭化を推進するため、「北海道開発局復興・強靭化推進本部」を設置しました。

会議では、北海道庁の復旧・復興推進本部の取組とも連携し、復興工事に関する情報交換、事業調整の取組に対する議論を行い、被災地の着実な復旧・復興に努めています。

北海道の復旧・復興及び国土強靭化を推進します

当面の取組

- ①被災した地域の復旧・復興状況の把握、対応及び調整
- ②被災による農林水産業や観光等の産業に関する全道及び全国への影響の把握、対応及び調整
- ③食と観光を担う生産空間の維持・発展など北海道型地域構造の保持・形成及び強靭な北海道の実現の推進
- ④「重要インフラの緊急点検」への対応



胆振東部地域における震災復興に係る連携

トップレベル

被災3町長との定期的な意見交換

安平町長、厚真町長、むかわ町長から直接、室蘭開発建設部長及び胆振総合振興局長が、定期的に町の実情を聴き取り、意見交換を行っています。

実務者
レベル

現地連絡調整会議

安平町、厚真町、むかわ町と国・道の担当者が各町の復旧・復興に関する動向を共有、国・道からは、支援・補助制度等の紹介を行うなど綿密な連携・意見交換を行っています。

※砂防事業による国土強靭化の推進、農業、港湾事業及び食や観光への復興に向けた具体的な取組は次ページ(P22)以降に掲載しています。21

災害査定

復旧・復興
に向けて
強靭化推進

査定状況(平成30年10月10日)
一般道 上幌内早来停車場線(厚真町)

速やかに災害査定を行い、早期の復旧を支援

道路、河川などの公共土木施設が自然災害により被害を受けた場合、被災した施設を管理する地方公共団体は、施設の復旧を行うため国土交通省に国庫負担申請を行います。

胆振東部地震により被害が発生した施設の早期復旧に向け、被災後約1か月という短期間で災害査定に着手し2月1日に終了、470箇所、約415億円の災害復旧事業費が決定されました。

現在、地方公共団体等による早期復旧に向けた、復旧工事が進められています。

**地震の影響により鶴川、沙流川、茨戸川、石狩放水路が被災
直轄河川
の復旧**

鶴川左岸KP0.7被災状況

鶴川左岸KP0.7本復旧完了

鶴川左岸KP0.7 本復旧工事切り返し工施工状況
切り返し工:亀裂が発生した箇所を掘削し除去

特に鶴川では堤防に重大な縦・横断亀裂が発生したため、次の出水に備え緊急的な復旧工事に9月7日着手。24時間体制で実施し、堤防の緊急復旧を9月13日に完了しました。また本格的な出水期までの完成を目指した、堤防の本復旧工事は7月30日に完了しました。 22



日高幌内川、チケッペ川、東和川の3河川を国直轄で推進

北海道勇払郡厚真町を中心に発生した土砂災害に対し、北海道知事からの要請をふまえ、新たに国直轄で土砂災害対策を推進。これに対応するため、10月に「厚真川水系土砂災害復旧事業所」を設置、平成31年4月に「厚真川水系砂防事業所」へ組織を強化しました。

大規模な河道閉塞が発生した日高幌内川における対策を推進するとともに、チケッペ川と東和川の河道内に堆積した不安定土砂等の再移動による二次災害を防ぐための緊急的な砂防工事を実施します。





緊急的な砂防工事の実施状況

大規模な河道閉塞が発生した厚真川水系日高幌内川の緊急的な砂防工事に10月2日着手しました。

工事用道路造成を10月末、倒木処理等を11月末迄に完了、11月中旬に河道閉塞部を25m切り下げる掘削工に着手し、24時間体制で工事を実施しました。

3月26日に、融雪水を安全に流すための水路工が完成しました。



対策の早期完成

また、チケッペ川、東和川においては、砂防堰堤建設のための掘削工に1月中旬に着手しました。

緊急的な対策として工事している3基の砂防堰堤の内、チケッペ川の1基は5月に完成。他2基の砂防堰堤についても、7月末に完成しました。

地域農業の持続・復興 に向けた取組

復旧・復興
に向けて

産業支援

勇払東部地区(厚真町)

パイプライン被災状況 (H30.9)

暫定水路(トラフ) 設置状況 (R01.5)

営農開始 (R01.5)

生育状況 (R01.8)

胆振東部地震により厚真ダムやパイプラインが被災したことから、暫定的な用水確保を行い、5月始めには営農が開始されました。

地域の基幹産業である農業の復興に向けて、北海道や厚真町等と連携し、農地や農業水利施設の本復旧を推進します。



放流機能確保工事等を実施 (R01.5)



25

直轄災害復旧事業 を実施

復旧・復興
に向けて

産業支援

新鶴川地区(むかわ町)

川西幹線用水路被災状況 (H30.9)

仮復旧状況 (R01.5)

用水路が崩落土砂により閉塞したため、仮復旧工事を実施し、5月始めには営農が開始されました。地域の基幹産業である農業の復興に向けて、北海道やむかわ町等と連携し、農業水利施設の本復旧を推進します。

早来地区(安平町)

ダム天端クラック

瑞穂ダム被災状況 (H30.9)

堤体再盛立

ダム堤体の上部の補修状況 (R01.7)

瑞穂ダムでは、堤体の一部損傷や貯水池内への土砂の流入があり、ダムの補修や土砂撤去を進めます。

道央用水地区(夕張市)

夕張シーパロダム被災状況 (H30.9)

応急措置状況 (H30.9)

夕張シーパロダム貯水池法面が損傷したため、昨年9月に応急措置を実施しました。
本復旧に向けて被災した貯水池法面の補修を進めます。

苫小牧港 直轄災害復旧状況

復旧・復興
に向けて
産業支援

中央ふ頭2号岸壁
船だまり船揚場
船だまり荷さばき地
船だまり物揚場(-3m)
船だまり物揚場(-4m)
苫小牧港東港区 直轄災害復旧箇所

地震により、岸壁及びエプロンの沈下・ひび割れ、岸壁法線の迫り出しなど、苫小牧港西港区2施設、東港区5施設に被災が発生。復旧工事は平成31年3月に開始し、令和2年3月までに完了を予定しています。

東港区物揚場(-4m)
法線迫り出し
被災の状況
本体工

東港区物揚場(-3m)
被災の状況
本体工

27

復旧・復興
に向けて
産業支援

海外輸出を通じた 復興支援の取組



仕入の増加、新規取扱を開始した商品

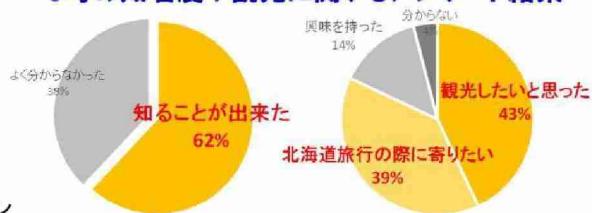


台湾の北海道アンテナショップで、「北海道胆振東部地震復興支援フェア」を開催、被災地の「食」と「観光」のPRを行いました。

会場は2千人以上の来場者で賑わい、来場者アンケートでは、約8割の方が「3町を観光してみたい」と答え、フェアを通じて東胆振地域の知名度向上に貢献しました。

販売事業者が「じゃがバター」や「とうもろこし」の仕入を増やし、「ハスカップワイン」の新規取扱を開始するなど、今後の販売展開に一層の期待感が生まれました。

3町の知名度や観光に関するアンケート結果



パネル展開催による復興支援



札幌市西区八軒 レンガの館



札幌市生涯学習センター ちえりあ

北海道開発局が各関係機関と連携し実施した「緊急対応」、「被災地支援」、「復旧・復興に向けた取組」をまとめたパネル展を開催しました。パネル展を通じて、地域との連携、住民の防災・減災の意識向上に役立てていただくことを目的としています。



シーニックバイウェイ北海道と連携し、昨年10月に東京・池袋で行われた「北海道まるごとフェアinサンシャインシティ」の観光PRブースにおいて、道内ほぼ全ての地域で観光客の受入に支障がないことの動画等での発信や、「秀逸な道展」として道内の魅力的な道路景観や食のPRを行いました。

**北海道開発局は、地域のみなさまと一緒に、国内外に向けて
北海道の元気を発信し、北海道観光の復興に取り組んでいます。**

元気です
北海道

We are GENKI Hokkaido



Welcome!
HOKKAIDO,
Japan.

北海道銀行との連携により、北海道内各地域からの動画(収集協力:シーニックバイウェイ北海道・北海道運輸局)を北海道銀行等の道内外の銀行800店舗以上で発信しました。

外国人ドライブ観光客が多く利用する道の駅等10か所に「元気です 北海道」のロゴが入ったSNSパネルを設置し、国内外の旅行者による情報発信を促進しました。

復興応援

震災を振り返るとともに 被災地を復興応援

平成30年 北海道胆振東部地震 復興応援パネル展

北ガスの電話は
電話1本!

0570-008-800

ABIRA

ANPO

SONS 秋

平成30年北海道胆振東部地震から1年を迎えました。この機に震災を振り返るとともに、甚大な被災を受けた被災3町の復興を支援するために、地下歩行空間及び札幌ドームにおいて「平成30年北海道胆振東部地震復興応援パネル展」を開催しました。

札幌ドーム

被災3町の復興応援パネル

地下歩行空間

9月6日(金)日本ハムファイターズの試合に合わせて復興祈念セレモニーが開催され、震災当時最前線で復旧活動に当たった関係者が表彰されました。

30

復興応援

厚真町からの情報 復興応援!

あつま国際雪上3本引大会（令和2年1月上旬）



厚真町から発信する新たなスポーツ『3本引き』。同時に3本の綱を使って行う綱引きで、2本取ったチームが勝利となる。体力はもちろんのこと、作戦やチームワークが重視される奥の深い競技です。

ランタン祭り・スターフェスタinATSUMA（令和2年2月上旬）



●ランタン祭り

メイン会場を中心に町内を無数のアイスキャンドルが彩る他、「ジンギスカンのランタン焼き」や「ラーメン早食い」を初め、数多くのイベントが楽しめます。

●スターフェスタinATSUMA

厚真町の冬の風物詩。毎年恒例になった「巨大干支文字焼き」と、冬の夜空を彩る約2000発の打ち上げ花火を楽しめます。会場では、餅つきや振る舞い酒などのイベントもあり、毎年多くの観光客でにぎわいます。



こぶしの湯あつま（通年）



こぶしの湯HP



厚真町にある温泉宿泊施設です。種類豊富なお風呂と、厚真特産の新鮮な素材が自慢のお食事で、優雅に安らぐ寛ぎの空間。ゆったりお風呂でのんびり気分♪日々の疲れをリフレッシュしてください。ラウンジ・泡ぶろ・打たせ湯・露天風呂・水ぶろ・サウナなど多彩なお風呂をご用意しています。

大沼フィッシングパークと野営場（令和元年9月30日迄）



鰆沼地区にある大沼のフィッシングパークでは釣り（7月～9月）を楽しめます。釣れるのは鯉やフナなどの淡水魚。また沼のほとりには、野外炊事場や簡易トイレ水洗トイレ等の必要最低限の人工物だけが設置された自然を大切にしたキャンプ場である大沼野営場があります。静かにゆっくりとキャンプを楽しみたいという方におすすめです。

特産品（他にもあります！ 厚真町観光協会HP [http://www.tsumamono.com](#)）

バスカップゼリー



あづまジンギスカン



まつかわ



バスカップジャム



ホッキ貝



ししゃも



復興応援

安平町からの情報 復興応援!

笑顔をとどけよう集会～8000人の笑顔プロジェクト（平成30年10月～平成31年3月）



早来小学校の6年生達が、次の3つの目的を掲げ、発災当時の安平町の人口分8,000人の笑顔を会場（同校体育館）に飾ることを考えました。

1. 震災でお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えるため。
2. 早来小は元気だと伝えるため。
3. 安平町の皆さんに元気になってもらうため。

SNS等を通じて、国内外から34,876人分の写真が寄せられるなど、多くの方の協力を得て集められた笑顔は、平成31年3月12日に同校の体育館の壁一面に飾られ、多くの方が訪れました。

道の駅あびら「D51ステーション」 鉄道資料館ミニSL運行（令和元年10月14日：鉄道の日）



本物と同じく石炭を燃料に走る1/6ミニSL「D51 320」を「安平町追分SL保存協力会」の協力により、8月に4回運行しました。10月の鉄道の日にも運行を予定していますので、是非、この機会にSLの魅力に触れてみて下さい。

- ・運行日：令和元年10月14日（鉄道の日）※雨天中止
- ・運行時間：12:30～14:30です。
- ・※準備等により時間がずれる場合があります。
- ・会場：道の駅あびらD51ステーション横の「追分柏が丘球場」
- ・運賃：無料

道の駅あびら「D51ステーション」に是非お越し下さい！



2019年4月19日、道の駅がオープンしました。

観光情報、ティクアウトコーナー、特産品・ベーカリーコーナー、鉄道文化を伝えるレガシーギャラリー、農産物直売コーナーなど安平町の魅力を集結。併設される鉄道資料館では、全国屈指の静態保存を誇る蒸気機関車「D51 320」や『特急おおぞら』などで活躍した北海道仕様の特急車両「キハ183系」が展示されています。

安平町はこんな町～歴史で見る安平町～

●チーズ工場発祥の地

昭和8年、安平町内の遠浅地区で「北海道製酪販売組合連合会」によって日本で初めて大規模なチーズ製造が行われました。当時は、まだ高級嗜好品とされていたチーズですが、これを機に、以後我が国では体制を整えての本格的なチーズ生産が始まっています。このことから、安平町は「チーズ専門工場発祥の地」と言われています。安平町では、現在でもカマンベールチーズをはじめとする質の高いチーズが町内の企業によって生産されています。



●日本で最後にSL「さよなら列車」が走った地

昭和50年12月14日、室蘭～岩見沢間を日本最後のSLによる定期旅客運行列車が運行しました。当日は「C57 135号」機関車に牽引され、225普通列車8両編成が走りましたが、室蘭線沿線は、さよならSLを惜しむファンであふれたと言われています。昭和50年12月24日、追分～夕張間をSLさよなら貨物列車が運行され、「D51 241号」機関車に牽引された石炭専用列車第6788列車(33両、990トン)が追分駅構内に到着。すべての国鉄本線からSLが姿を消し、引退しました。



復興応援

むかわ町の情報

復興応援!



スポーツ選手も復興応援！！



5月19日に、2002年から続く、今年18回目を迎えるArimoriCupマラソンが開催されました。マラソンランナーの有森裕子さんが提唱する「喜びを力に」を基本コンセプトに「くじけず、あきらめず、がんばる」ことの大切さをマラソンを通して体感するマラソン大会です。

有森さんは、参加した3歳から87歳のランナー325人へ声援を送りながら、「アリモリロード」と名付けられた河川敷と一緒に走りました。



北海道胆振東部地震で被災した、むかわ町を元気づけようと、大相撲の友綱部屋が6月11日～17日に町内で初めて合宿を行いました。

旭川市出身で十両の旭大星ら現役力士10人が合宿に参加。子供相撲や道の駅「四季の館」でちゃんと振る舞うなど、町民と交流して元気づけました。

道の駅「四季の館」が充実しています。



道の駅「四季の館」には、温泉やホテル等が併設され、町外の方には観光の拠点として、町民の方にはトレーニング施設やプール、図書館など憩いの場として利用されています。物産館では、おみやげも充実。是非お立ち寄り下さい。

おいしい「ししゃも」が食べられます。



むかわ町のししゃもは、かつてアイヌの人たちに「神がくれた魚」として尊ばれ、緑豊かな森を育み、悠久に流れる鶴川とともに生きてきました。この貴重なししゃもを町の資源として未来永劫残していく町民の決意を象徴化するため、平成7年7月に開催された町100年記念式典で「町魚」に制定されました。

ししゃも漁が解禁となる10月上旬から町内には、すだれ干しが並びます。旬にしか食べることできない寿司や絶妙な加減の生干しを焼いたものなど、本物のししゃもが味わえます。

町観光資源をPRするWEBページを開設しました！



2019年7月13日（土）より開催中の「恐竜博2019」をきっかけに、交流人口の拡大・関係人口の創出を目指す取り組みの一つとして、恐竜や化石をはじめとする町の観光資源をPRするWEBページを開設しました。

むかわ町の地場産品や食事・観光スポットを紹介しているほか、各映像もお楽しみいただけます。

むかわ町HP



むかわ町ふるさと納税HP



33

平成30年北海道胆振東部地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。

 平成30年北海道胆振東部地震に伴う災害対応状況
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/saigai/splaat000001e1uy.html>



札幌第1合同庁舎
住所 〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目
電話(011)709-2311

北海道開発局ホームページ
<https://www.hkd.mlit.go.jp/>



令和元年9月



国土交通省 北海道開発局
〒060-8511
札幌市北区北8条西2丁目札幌第1合同庁舎
TEL: 011-709-2311 [大代表]
<https://www.hkd.mlit.go.jp/>

令和2年3月発行